

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

～特別の教科 道徳における ICT を効果的に活用した授業改善を通して～

渋川市立三原田小学校 高津 亜弓

I テーマ設定の理由

本校では、校内研修において、ICT を活用した授業をすることを通して、情報活用能力を高め「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を目指し、取り組んでいる。特に道徳では、道徳的価値を自分事として捉えたり、多様な考え方やよりよい考え方に気付かせたりするための ICT の効果的な活用方法を検討することを通して、「主体的・対話的で深い学び」につながる道徳の授業を目指している。

そこで道徳では、一人ひとりに自分の考えをもたせ、友だちの考えを共有させるための、ムーブノートやオクリンクなどを活用することにより、ねらいに迫っていきたいと考え、本テーマを設定した。

II 実践例

1 主題名 してはいけないこと 内容項目 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

教材名 「わりこみ」(出典:「生きる力2」日本文教出版)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人として行ってよいこと、行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。また、自ら正しいと信じることに従って主体的に行動することが大切である。しかし現実には、よいと思ったことを進んで行うことは簡単なことではない。それは、利害や損得などの打算的な考えや、自分に自信がもてないために行動できないなど心の弱さに左右されるからである。積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別して、遠慮せず、自信をもってよいことを進んで行おうとする態度を養うことが大切である。

(2) 児童の実態について

やってよいことと悪いことは概ね理解している。しかし、自分の感情や人間関係に左右されて、流されて行動してしまう姿も多く見られる。また、正しいと思っていることでも、大勢の人の前では遠慮したり自信がなくなったりして、なかなか率直に正しいと思うことを行えなかったり言えなかったりする児童もいる。そこで、自分の都合ではなく、よいことと悪いことを正しく区別して、みんなが気持ちよく生活できるように、よいことを進んで行おうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、すべり台の順番待ちで、はじめは割り込みをされて憤る主人公が、自分のすぐ後なら「かまわないかな」と思う。しかし、他の人の「ずるいなあ。」という声を聞いて、悪いことは悪いと気付く「わりこみはいけないよ。」とはっきり注意するという話である。やはり悪いことは悪いと気付いて注意する行為に至った主人公の心情を深く考えることを通して、人として行ってよいことや悪いことの区別をして行動することの大切さに気付く、よいことを進んで行おうとする態度を養うことができる教材である。

3 ねらい

割り込みはどんな場合でもいけないことを知り、誰もが気持ちよく生活できるように、よいと思うことを行おうとする態度を養う。

4 展開

(1) 準備 場面絵の提示用パソコン、場面絵の提示用モニタ、場面絵、端末

(2) 展開 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

学習活動と発問	時間	予想される児童生徒の反応	支援及び指導上の留意点 ◎研究上の手立て
<p>1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。</p> <p>○学校生活ではしてはいけないことはなんですか。</p> <p>◇なぜ、よくないことをしてしまうのでしょうか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走ってはいけない。 ・友達をいじめない。 ・危ないことをしない。 ・人の物をとってはだめ。 ・嘘をついてはだめ。 ・授業中、おしゃべりや手悪さをしてはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題名についてイメージさせ、いけないと分かっているにもかかわらず、悪いことをしてしまうのはなぜか問い掛け、自分事として捉えさせ、めあてにつなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて どうしたら、よいと思うことをすすんでできるようになるのでしょうか</div>			
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>○「ぼく」は、なぜにらんだのでしょうか。</p> <p>○「ぼく」の後ろなら構わないかなと思ったのは、なぜでしょう。</p> <p>◇自分さえよければよいのか。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>◎「ぼく」は考え直して、「やっぱりわりこみは</p>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・あとから来たのにずるい。 ・ぼくの順番が遅くなる。 ・ぼくが先。 ・自分は損をしないから。 ・自分の順番は変わらないからいい。 ・待つ時間が変わらないから。 ・自分さえよければいいというのでは、いけないと思ったから。 ・このままでは、もやもやする。(すっきりしたい。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちや立場を確認しながら読み進めることにより、教材文の内容を理解させる。 ・教師がいさむになり、いさむをにらみつける「ぼく」を全員で動作化させることによって、自分の順番が抜かされたことに腹を立てている気持ちに共感させる。 ・板書をもとに、順番を抜かされたときの気持ちと、「後ろならいいか」と思ったときの気持ちを対比させることにより、自分の損得で考えていることに気付けるようにする。 ・動作化をすることによって、「いけないことは、いけない」という思いを強め、よいことが出来たときのすがすがしくすっきりとした気持ちを捉えさせる。

<p>いけないよ。」とはっきり言えたのはなぜか。</p> <p>◇どんなことを思ったからかな。</p> <p>◇もし、いさむさんが「一人くらいいいじゃないか」と言ってきたら、どうしますか。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。</p> <p>○どうしたら、よいと思うことをすすんでできるようになるのでしょうか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのためにもはっきり言おうと思った。 ・悪いことは、悪い。 ・それでもだめと言う。 ・周りの人のことも考えさせる。 ・後のことを考える。 ・みんなのことを考える。 ・すっきりした気持ちを大切にすする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その後のことを考えることを通して、道徳的諸価値の理解を深めさせる。 ◎ムーブノートを活用して、カードに書かせる。 ・よいことをしたときのすがすがしい気持ちをイラストによって視覚的に捉えさせる。
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○してはいけないことをしている人を見かけたら、何とえばよいでしょうか。</p> <p>◇どのような言い方をすればよいかな。</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・してはいけないよ。 ・なぜ、そういうことをしているの。 ・だめだよ。 ・やめた方がいいよ。 ・やめなよ。 ・優しく言う。 ・相手が傷つかない言い方をすする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎これからの生活を想定した具体例を提示し、何とえばよいか考えさせる。オクリンクを活用して言葉に出させ（動画撮影）、共有させることにより、「自分もできそうだ、やってみよう。」という気持ちをもたせる。 ◎アンケートフォームにより振り返りをさせる。

5 授業記録

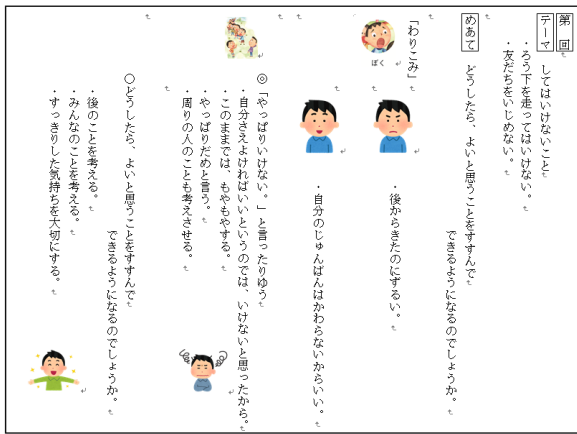
授業後の授業研究会で、手立てに関する意見として出された成果と課題を下記にまとめる。

〈成果〉

- ・ICTの活用により友達の考えが見られたり、短い時間で多くの意見を取り上げることができたりしたので、とても有効的であった。普段の積み重ねにより、2年生でも記述することができていた。
- ・ムーブノートでの拍手ボタン、深い学びのボタンの活用やオクリンクでの動画の活用により児童の変容などを見取るのにも有効であった。

〈課題〉

- ・ICTの活用場面が多すぎるため、子どもたちとのやり取り（議論）の時間が短かった。道徳では児童の本音を引き出すような授業作りを工夫することが大切であるので、場面によって、本当にICTの活用が必要なのか、精査していく必要がある。



板書



授業の様子



オクリンクやムーブノートを活用



児童の意見を共有

III まとめ

ICT の活用により、発表するのが苦手な児童も自分の意見を友だちと共有することができたこと、短時間で多くの意見を取り上げることができたこと、そして、道徳ノートだけでなく動画などの記録も評価につなげることができたことは、とても有効であったことから、今後も道徳における ICT の効果的な活用方法を検討していく。特に、道徳では考え議論するを意識し、授業作りをしていくことが大切であるので、どこでどのように ICT のメリットを活かすかを検討していくことが必要である。

現在、この授業での評価を踏まえ、授業改善を行っている。例えば、ICT を活用して心情メーターを共有させ、その心情メーターをもとに友達との意見交流を取り入れたりしている。また、ねらいに深く関わる中心的な発問を考へることや、ねらいにせまるための問い返し、言葉を補うための問い返し、つなぐ問いなどを取り入れる工夫をしている。低学年では、本音を引き出すやり取りができるように、役割演技や動作化を取り入れる工夫もしている。



児童と教師との役割演技

児童同士で考えを共有し、話し合いながら進めていけるように、ICT の活用を含めた児童同士のやり取りの仕方を模索しながら、引き続き実践に取り組んでいく。